

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	住吉区
学 校 名	大空小学校
学校長名	岩本 由紀

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
 - ※理科については、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題を一体的に出題
- (2) 質問紙調査
 - ・児童に対する調査
 - ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大空小学校では、第6学年 40名

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語については、知識に関するA問題は、昨年度と比較して全国との差が若干大きくなっている。ただし、活用に関するB問題は全国との差は縮まっている。
算数に関しては、国語と逆の傾向で、知識に関するA問題は概ね昨年度より差が縮まった。活用に関するB問題は図形、選択式以外は差が広がった傾向となった。
平均無回答率は昨年度より高くなっており、特に国語、算数ともに活用に関するB問題で高くなっている。ただし、どの教科に関しても全国平均より低く、児童は自分の考えを表現しようとしている。なお、今年度より実施された理科に関しては、平均無回答率は0であり、また、理科の授業で自分の予想をもとに観察や実験に計画を立てている割合が8割と高く、自ら学ぼうとする意欲が育っている結果であった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

- ・A問題では、話す・聞く力の能力、言語についての知識・理解・技能については頑張りが見られ、文の中の主語と述語の関係を注意して書くことは正答率が低く努力が必要である。国語A選択式の回答は無回答率は0であった。
- ・B問題では、領域および評価の観点ともに話す・聞く・書く能力は昨年度より平均正答率の全国比の差が縮まり頑張りが見られる。

〔算数〕

- ・A問題では、領域・評価とも全項目で昨年度より平均正答率の全国比の差が縮まり、特に数量関係は頑張りが見られる。
- ・B問題では、昨年度、図形について平均正答率が低かったが、今年度は改善された。活用に関する選択式の問題の正答率は府平均に近づいたが、記述式の問題に関しては差があり、無回答率も高かった。

〔理科〕

- ・理科は生命に関する問題は全国・府平均の平均正答率に近くなったが、物質・地球に関しては努力は必要であった。ただし、理科は無回答率が0であり、日々の授業への興味関心や参加意欲が表れた結果となった。

質問紙調査より

- ・児童質問紙において、「自分にはよいところがあるか」は83%、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」は87.8%の結果となっており、児童が自分のことを肯定的にとらえている、また教師との主体的・対話的な学びの姿勢が表れた結果と言える。
- ・「学校のきまりを守っているか」は92.7%「友だちとの話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」児童も80.4%となっており、本校が取り組んでいるたった一つの約束を守る意識の醸成、また「人を大切にする力」「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」の4つの力を持つ子どもを育てることが成果として表れたと言える。
- ・学習面では、家庭における学習の予習・復習をしている児童の割合は低く、今後も家庭との連携を重視していく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

- ・国語の知識に関するA問題は平均正答率が横ばいの状況であり、読み書きのスキルアップに向けて読書活動の充実や自分の考えを発表する機会や他の児童や教職員の意見を聞く機会の設定を継続して行う。
- ・算数の関しては計算タイムの確保や内容の充実を図るとともに、宿題、予習、復習の徹底を行う。
- ・理科に関しては、現在、児童の興味関心が高まるような授業の工夫を行っており、引き続き、観察や実験など、児童自らが意欲を持って取り組めるような教材研究を進める。
- ・どの教科においても児童が自分の考えを持ち、自分を表現できることが重要である。考えを持つために子ども同士は意見を聴き合い、大人の意見も聞き、自分の考えをふくらませる取り組みを行う必要がある。本校で取り組んでいる「つなげる、よりそう、ふくらませる」学習を意識して取り組んでいく。また、引き続き、外部講師の招聘やICT機器を活用する等、授業の工夫を図っていく。